

CO2削減メニューと効果(試算値)(2005~2012)

別紙-2

1 経済社会状況の変化及び道路整備等による走行量の増加で
2010年までに増加が見込まれるCO2の量

約800万t-CO2/年

2 2012年までに取り組む道路政策とそれによるCO2の削減効果

道路政策メニュー		2012年までの 効果(試算値) (t-CO2/年)	2010年までの 効果(試算値) (t-CO2/年)
(1) 人と車のかかり方の再考			
① 個々人の自動車利用パターンの適正化	・自動車利用パターンの適正化を図るため地域住民とのコミュニケーションを実践		
② 公共交通のシステム改善と運用改善	・公共交通機関の利便性向上に向け、公共交通事業者、道路管理者、利用者、地方公共団体等が一体となって取り組む地域に総合的に支援	(内 京都議定書目標達成計画登録値10~20万t ※1、※2)	(内 京都議定書目標達成計画登録値10~20万t ※1、※2)
③ エコドライブの推進	・デジタルタコメーターを用いた運行管理システムの普及 ・エコドライブ診断等の実施		
④ 荷主・物流事業者と一体となった施策の取り組み	・環境負荷の少ない輸送システムに取り組む物流事業者への支援 ・公共事業に関連して利用される貨物車の環境配慮の徹底		
(2) 渋滞のない道路の実現			
① 環状道路等CO2排出抑制効果の高い道路整備の重点化	・首都圏三環状の緊急整備による削減	約50~100万	約40~70万
② 主要渋滞ポイント及びボトルネック踏切の対策	・主要渋滞ポイント約1800箇所及びボトルネック踏切を含む踏切約540箇所の対策	約300~400万	約200~300万
③ 車線幅員の減少や流入抑制による人に優しい道路の実現	・バイパスや環状道路が開通する際に、交通規制や容量削減施策による生活道路の通過交通抑制のための計画策定を支援		
④ 高速道路利用の促進	・高速道路利用率を約17%程度に向上	約200~300万	約200~300万
⑤ 路上工事の縮減	・地球温暖化対策大綱・目標達成計画で示した目標値は概ね達成済み。今後、一層の努力を行うことでさらなる削減を目指す	0~10万(※2)	0~10万(※2)
(3) 道路空間の活用・工夫によるCO2の削減			
① 道路緑化の推進	・線的な道路緑化に止まらず、道路に面する公園など公的空間はもとより、私的空間も含めて沿道と連携し面的な緑化を推進		
② 保水性舗装等の導入促進	・道路の舗装面への散水(打ち水)や、路面温度を効率的に低下させる舗装(保水性舗装、遮熱性舗装)の導入を促進		
③ 道路空間における新エネルギーの活用	・新エネルギー(太陽光・風力等)を道路照明等に活用し、道路管理に伴うエネルギー使用を削減		
(4) 自動車交通の運用の効率化			
① ITS(高度道路交通システム)の活用等による道路交通情報の提供の充実	・VICSの利用促進 ・ETCの普及促進	100万(※2)	100万(※2)
② 路上駐車対策	・公安委員会の取り締まり強化と併せ、道路パトロール時に違法駐車抑制施策を推進		
合 計		約650~900万	約550~800万

※1 中量軌道システム、LRT等の整備及び自転車道の整備等の自動車交通需要の調整による削減量

※2 京都議定書目標達成計画計上分のうち2005年~2010年に相当する分